様式第１号（第１０条関係）

２０２３年度業務実績報告書

提出日２０２４年1月１２日

１．職名・氏名　准教授・篠原秀文

２．学位　学位　博士（農学）、専門分野　植物生化学、授与機関　名古屋大学、授与年　2009年

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 分子生物学 II（２単位）・3 年時 分子生物学実験（２単位）（分担）・3 年時 生物資源学概論（２単位）（分担）・2 年時
②内容・ねらい 分子生物学の基礎的知識および思考を身につけるため。 科学を学ぶために必要な英語を身につけるため。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・毎回の講義用スライドを資料として印刷配布し、復習しやすくした。また各章の終了時にまとめと演習を行う時間を設けた。 ・動画資料や YouTube を講義に取り入れることで理解度を上げる工夫をした。 ・毎回、講義冒頭に前回の復習の時間を設け、また学生から挙がった質問に回答する時間を設けた。
(2)その他の教育活動
内容

４．研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

【0 本】

②学術論文（査読あり）

*1. Shinohara H. (2023)
Functional Expression of the Ectodomain of Plant Receptor Kinases in Plant Suspension Culture
Advanced Methods in Structural Biology
***Methods in Molecular Biology* 2652** Chapter 7. pp 129-143 (Apr 2023)

2. Shinohara H. and Matsubayashi Y. (2023)
Evaluation of Direct Ligand-Receptor Interactions by Photoaffinity Labeling
Plant Peptide Hormones and Growth Factors
***Methods in Molecular Biology* 2731** pp 234-240 (Nov 2023)

【2 本】

③その他論文（査読なし）

【0 本】

④学会発表等

*1. 「Thallus development controlled with Marchantia-specific peptide hormone-receptor pair」、ICAR2023（2023 年 6 月）、Hidefumi Shinohara（ポスター発表）
*2 「Thallus development controlled with Marchantia-specific peptide hormone-receptor pair」、TJPB2023（2023 年 10 月）、Hidefumi Shinohara（ポスター発表）
*3 「植物のペプチドホルモン研究は（まだ）ブルーオーシャンなのか？」日本農芸化学会中部支部第 197 回例会（2023 年 11 月），篠原秀文（招待講演）
4 「根端メリステム活性を制御するペプチドホルモン RGF のゼニゴケオーソログ MpRGF の機能解析」北陸植物学会（2022 年 11 月），岩島亜希、古水千尋、篠原秀文（口頭発表）
5 「ゼニゴケ特異的な硫酸化ペプチドホルモン MAPPY の機能解析」北陸植物学会（2022 年 11 月），横井洸太、林陽子、松林嘉克、篠原秀文（口頭発表）

【5 件】

⑤その他の公表実績

【0 本】

(2)科研費等の競争的資金獲得実績

【学外】科研費・新学術研究領域（公募研究）、内藤記念科学振興財団・内藤記念科学奨励金・研究助成、住友財団・基礎科学研究助成
【学内】戦略的課題研究推進支援事業、個人研究推進支援

(3)特許等取得

(4)学会活動等

５．地域・社会貢献活動

⑥公開講座（2022 年 12 月、「福井県大から発信！あなたの知らない「コケ」の世界」、大学都合により開催不可能）

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
職場委員会（2023 年 4 月～現在に至る） カリキュラム WG（2023 年 4 月～現在に至る） 広報 WG（2023 年 4 月～現在に至る）
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス（2023 年 8 月、研究内容の紹介・展示） 白樫祭（2023 年 11 月、研究内容の紹介・展示）
(4)その他、自発的活動など